

(01.07.24)

夏休み休刊前の挨拶

今週号で夏休みにはいい、9月まで所内版は休刊します。

4月より、多数の方に原稿を依頼したところ、皆さん健筆を揮(ふる)っていただき、感激しています。鈴木和君の「リフレッシュ休暇」(いい響きの言葉だ。忘れていたような気がする)、前川君の「アシモフ」(スピルバーグの「AI」見ました。2千年の愛には涙が止まりませんでした)、漆原君の「ランへの思いやり」(ワサビも程よく利いて、いい雰囲気文。筆に力の入り過ぎる自分を反省)、木村さんの「脱日常」(和服姿は別世界の麗人のごとく)、などなど。全てに、個性がにじみ出て、楽しく読ませて頂きました。失礼な言い方ですが、皆さん思いのほか人生の達人ぞろい。研究しか能の無い自分が「これでいいのか」と思えてきました。9月からもドンドン原稿依頼します。書いてください。毎週火曜夜の下読みを楽しみにしています。

さて、少しスペースがあるので、夏休みのお勧めを何点か。

推薦映画： 「ハムナプトラ2」(家族で見に行きました。女房は彼にくびったけ。文句なし面白い)。「AI」(愛をインプットされたAI。ピノキオを人間に変える妖精は宇宙の彼方から?)。

推薦本：

落合信彦「勇気の時代」(ザ・マサダ社、2001)。第1章は「20世紀を捨てる勇気をもて」。元オイルマンで世界を渡り歩いた彼の作品はジャンルを問わず実に面白い。ただし、今のままで死んでいきたい人には毒ですのお勧めできません。

米沢富美子「二人で紡いだ物語」(文芸春秋、2001)。壮絶な科学者人生。敬服するが、私には別の人生が似合うようだ(注：米沢さんは慶応教授。物理学会初の女性会長)。

宮城谷昌光「孟嘗君(もうしょうくん)」(新潮、全4巻)。夏休みには長編の歴史小説に挑戦してみよう。宮城谷氏の中国歴史小説は、読者を黄砂の舞う広大な地に誘ってくれる。風洪(主人公の一人)のような清々(すがすが)しい人間の存在に、暑さも忘れ、世界が大きく広がっていくのを実感する。

では皆さん、良い夏休みを。

(広報責任者：高部英明)